

(498号より続き)

お風呂の道具として垢すりは手拭い、へちまを使いました。

へちまを栽培して酒樽に浸して腐らせて自分でへちまの垢すりを作っていました。また、子供から大人まで手足にあかぎれができ、お風呂で割れたところを軽石でこすっていました。他に肌を美しくするために糠袋(糠は米油が入っている)・うぐいすのふん・大豆をたたいて大豆の油で磨きました。男性は毛切り石(石でたたいて性毛を切る)も持って入りました。

江戸時代は髪を洗うのが大変なのと洗った後が大変な為に、月に1回か、半月に1度しか洗いませんでした。ごま油・椿油・くるみをつぶした油やびんつけ(松やに油を混ぜる)で髪を結っていました。

歯磨きはあわ砂と塩を混ぜた物を歯磨き粉売りから買い使用し、はぶらしの主流は柳の先端をつぶしたものでした。砂糖は手に入りやすく、甘いのは干し柿程度でしたので歯はきれいでした。

銭湯でお湯の量は少ないので、お湯を使いすぎると三助に怒られました。留め桶(大きな桶)

・小桶を借りるお金を月300円払って自由にお湯を使う権利を得られました。留め桶を持って入る人は、拍子木でしゃんしゃんとして迎えられるので優越感を得られました。

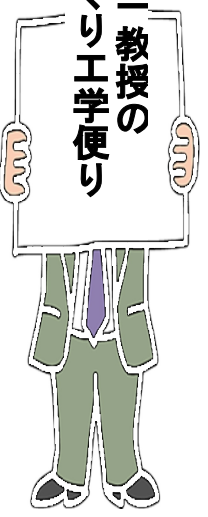
番台で拍子木1回で男、女は拍子木2回で三助に背中を流すお客さんを知らせてました。現在は日暮里駅前の斉藤湯だけが三助がおります。男性は三助と番台に座るのがやってきたかったです。番台に座れるのは長年勤めた番頭や主人か奥さんでした。

また、元旦・桃の節句(桃の葉を入れると疥癬ができない)、五月の節句(菖蒲湯で邪気を祓う) 冬至(ゆず湯)に粋な人は番台にチップを払っていました。

杉山六郎さんには「みなみせんじゅまいたうん」2000年8月号から南千住の生き字引きとして、歴史を記録頂きました。地域と人を大切にされる杉山さん、素敵の方です。今回で南千住一口話は終了致しますが、NPO法人粋と縁の情報図書館に掲載しております。

☆六郎が語る☆  
南千住一口話  
特別編

吉田喜一教授の  
ものづくり工学便り



ミニコミ22年最終号 16年間ご愛読いただきありがとうございます。

産技高専名誉教授 吉田喜一

このミニコミは確か、2006年9月号から書き始めました。航空高専・機械工学科現役教員の時でした。もう15年以上たつたのです。約10年前に現任教員を定年退職し、しばらく非常勤講師を頼まれて、非常勤講師も4年前(70歳の時)にリタイアしました。

高専学生時代を含めて約60年以上南千住に通いました。内科・整形外科・歯医者等のお医者さんも、南千住にお世話になりました。飲み屋さんも南千住でした。

南千住に定期的に行くことはなくなりました。この生活の切り替えがなかなか大変です。自然に南千住に足が向いてしまいます。定期があったときはあまり気になりませんでした。松戸ー南千住は往復440円で、松戸ー町屋は往復800円で、交通費の高さにびっくりしています。現在は完全に年金生活になっています。引きこもり気味になっていますが、用事を見つけては南千住に伺います。

お酒が入らないとシャイな青年のような吉田先生、高専のロボコンで活躍され学生たちにも温かい眼差しを注いでいました。

前向きでせっかちで前のめりに倒れるのでと心配していました。高橋造船所が無くなる時はその資料を残そうと奔走してくれました。色々大病をされましたが、メンテナンスしながら、まだまだ走り続けて頂きたいです。



みちのく白河・名所と味覚を楽しむ旅

消費生活  
アドバイザー  
佐藤祐一郎

こんには、メガネのサトウ4代目です。10月18日、雨上りの関東平野を疾走した東北幹線を、みちのくの入口・新白河駅で下車し、レンタカーで出発しました。最初に向かったのは、白河藩主松平定信(徳川吉宗の孫、寛政の改革で知られる。)が築造した南湖(なんこ公園(日本最古の「公園」)です。穏やかな水面の向こうに、那須の山々が見えます。渋沢栄一の援助で建立された、定信公を祭神とする南湖神社をお参りし、御朱印を受けました。次に向かったのは、歌枕として名高い白河関跡です。杉木立の丘の上は静かな空間ですが、土塁跡や空堀跡が残り、古の要衝を感じさせます。その地に鎮座する白河神社をお参りした後、今夏の高校野球で仙台育英が日本一となり「甲子園の優勝旗が初めて白河の関を越え」東北入りしたことになった限定の御朱印を受けました。白河関跡から少し横道にそれて、一旦栃木県に入ってから旧奥州街道へ出て再び北上、奥の細道曾良随行日記にも登場する境の明神をお参りし、福島県に入つてすぐの白坂宿にある郵便局で旅行貯金をしました。千住は日本橋を出て奥州道中最初の宿場町、白坂は26番目の宿場町です。南湖公園の近くに戻り、白河ラーメン「AZUMA」に入店して昼食です。人気のお店らしく、平日昼でも客入りは上々です。白味噌タンメンは太麺に美味しいスープがよく絡み、ボリューム満点で大満足でした。今回の旅は両親も同行しており、この後寄り道をしながら福島県内を移動し、伊達市の親戚宅へお邪魔した後、福島駅前解散。両親は「旅行割」で予約したホテルに泊まりましたが、私は翌日の店の営業に備え、上りの新幹線に乗って帰京したのでした。

※恒例!来年のオリジナル世界遺産カレンダーが出来上がりしました。只今メガネ・レンズをお買い上げで、ご希望のお客さまに進呈中です(数量限定)。当店公式ホームページでは、営業情報の他、当コラムをカラー写真付きで掲載しております。ぜひご覧下さいませ。



■メガネのサトウ ■ <https://megane-sato.com>  
南千住5の43の13【東京新聞並び】  
TEL 03(3806)4930

★休業日のご案内★

10月5日(月) ……毎週火曜定休です。

★営業時間のご案内★

平日(月〜金) ……午前9時〜午後6時30分

土休日 ……午前10時〜午後5時